

絶対評価の学校間格差

中学通知表の絶対評価が始まりました。以前に絶対評価の導入でみんな「5」がつくのではないかと予想しましたが、うちの塾生が通う中学に関しては、そうはなりません。むしろ成績の良かった生徒にしてみると、絶対評価では成績が下がる傾向がでています。特に中3は絶対評価と相対評価を併記していただいたので、その比較がよくできました。科目別の5段階評定の平均は、9科目中8科目が絶対評価になることで下がり、9科目の合計でも2.6も低くなりました。うちの中3の場合はもともとの内申点が高いので、この傾向は成績上位者に厳しくなるという結果なのかもしれません。ただ、ある意味でこれは良いことかもしれません。相対評価で「5」をとって「もうで充分だ」と思っている人にとっては、さらに上を目指す目標を与えられることになるからです。

ただ、今回気になったのは、どうも評価の方法が学校によってかなり異なっている点です。もちろん絶対評価である以上、担当の先生による多少の差はあるのですが、各科目4項目（国語は5項目）をA～Cに評価されたものをもとになっているはずの5段階評価のつけ方に差があるのです。

具体的に今回のうちの塾生結果で見えますと、高森台中学では、「5」を取っている人は4（国語は5）項目のうちすべてAの人が95%、Bが一つで他がAの人が5%でした。ところが、他の中学では、すべてAでなければ「5」がつかないというわけではないようで、Bが2つあっても「5」を取っている人もいます。また逆に、全項目Aの判定がついていても、高森台中学では31%のケースで「4」がついていました。

もちろん塾生以外の通知表を調べることはできませんが、学校によって従来の相対評価の時とは別の学校間格差がありそうです。せめて4項目がどうなったときに「5」にするのかくらいの基準はすべての学校で共通しているべきではないでしょうか。とくにこの絶対評価を受験につかうのならば、教育委員会や学校はもっと情報を公開する必要があるのではないのでしょうか。

高森台中学 1学期期末テスト結果

		英語	数学	理科	社会	国語	5科目計
中3	塾生平均	94.8	92.3	77.1	84.0	83.2	431.4
	学年平均	65.4	67.0	48.7	58.8	52.5	294.8
中2	塾生平均	82.2	85.4	83.1	78.7	78.1	407.6
	学年平均	56.0	61.5	58.1	65.6	62.6	303.5
中1	塾生平均	96.0	88.3	91.5	83.3	93.1	452.1
	学年平均	72.6	53.3	65.8	51.3	78.7	321.8